

事業計画書

事業名		さいころくらぶ
団 体	名称	特定非営利活動法人くらしき教育発達研究所
	住所	岡山県倉敷市白楽町 132-1 建部ビル 2F
	遂行責任者	菊池 浩史

1 団体の目的

* 定款，規約，会則等に定めている目的を，そのまま転記してください。

この法人は、心理的問題や発達のおつまずきのあるご本人とそのご家族からの相談に応じ、支援及び訓練の場を提供することで、彼らのクオリティ・オブ・ライフ（Quality of Life。人生の内容や社会的にみた生活の質。以下 QOL と略す。）の向上を目指す。また、地域社会への普及・啓発活動を通じて、人々の心の病や発達障がいに対する理解を深め、誰もが生きやすい社会の実現に寄与することを目的とする。

2 事業の分野

* 次のいずれか該当する分野にをしてください（複数選択可）。

保健，医療又は福祉の増進 社会教育の推進 まちづくりの推進
 観光の振興 農山漁村又は中山間地域の振興 学術，文化，芸術又はスポーツの振興
 環境の保全 災害救援 地域安全 人権の擁護又は平和の推進 国際協力
 男女共同参画社会の形成の促進 子どもの健全育成 情報化社会の発展
 科学技術及び学術の推進 経済活動の活性化 職業能力の開発及び雇用機会の創出
 消費者保護 団体の運営又は活動に関する連絡，助言又は援助

3 現状と課題

（1）地域の状況や市民ニーズ

子どもの貧困が注目されている。貧困は子どもの学力や意欲を低下させると言われており、また、次の世代へも連鎖していくことが知られている。貧困を理由に進学をあきらめるケースもあり、子どもが自力でこの連鎖から抜け出すことは難しい。そのため、子どもの貧困は社会的に解決していかなければならない問題である。

(2) 本事業で取り組む地域課題

岡山県の生活保護世帯の高校進学率が他県よりも低いことから、困窮世帯への子どもへの支援の充実が必要であると考えられる。中学生の高校進学への支援や高校生の中退の予防、それらの前段階である小学生の学習支援が必要である。また、子どもが行きたいと感じるような環境づくりが必要である。

4 目的と概要

(1) 事業の目的

どのような家庭に生まれたかで受けられる教育や進路、仕事などが制限される社会は不平等な社会と言える。このような状況を少しでも解消し、より平等な社会の実現を目指す。

(2) 事業の概要

倉敷市内在住の困窮世帯の子どもを対象に落ち着いて学習できる環境を提供する。不登校や障がい児のケアの経験を有するスタッフや教員免許を持つスタッフがそれぞれの課題や能力にあった方法で学習支援をおこなう。また、年齢の近いボランティアにもかかわってもらうことで、利用者の将来像のモデルを提供する。これにより、高校進学への支援や中退の予防、小中学生の学力や意欲の向上を目指す。

5 受益者と効果

(1) 事業の受益者

倉敷市内の困り感を持っている世帯の子ども
小学 4 年生から概ね 20 歳まで

(2) 事業の実施に期待する効果

生活保護世帯の高校進学率は低く、中退率は高い。様々な原因が考えられるが、困窮状態がそれらに良くない影響を与えていると言われている。そこで、学習支援と居場所支援をおこなうことで、高校卒業を支援する。これにより、中卒という不利な状況での就職を防ぎ、安定した生活を送ることができるものとする。また、小中学生についても困窮世帯では意欲の低下などが見られると言われている。学習支援や居場所支援をおこなうことが状況の解消につながるものと考えられる。

6 団体の能力

(1) 団体が持つ能力

様々な子どもとかかわってきた経験・ボランティアのコーディネート・他の市民団体との協力関係がある。

(2) 能力の活用

* 課題解決に向けて、団体の能力がどのように役立ちますか。

スタッフには不登校や障がい児のケアに関わってきたソーシャルワーカーや教員免許をもつ者がおり、利用者の多様なニーズに対応できる。また、大学生のボランティアにイベントなどで協力してもらってきた経験がある。

7 事業内容とスケジュール

(1) 事業の具体的な内容

方法

毎週土曜日の 17:30 から 19:30 に学習支援をおこなう。

利用者負担は無し。

大学生や教員免許所持者など、利用者のニーズに合わせたボランティアやスタッフが対応する。学習支援のニーズが高い利用者には教員免許をもったスタッフがかかわり、話し相手や居場所を求めている利用者には年齢の近い大学生のボランティアが対応する。

利用手順：倉敷市福祉援護課や倉敷市生活自立相談支援センターにパンフレット等を配布し広報する。また、市民団体や NPO 法人とも情報交換を行い、生活困窮世帯に情報を届ける。そして利用希望者と面談の後、利用を開始する。

これまでの取り組みから H29 年度に力を入れること

広報くらしきや FM くらしきでイベントの告知をおこなったことで利用者やスタッフが増加した。H29 年度はイベントの回数を増やし、積極的に広報をおこなうことで利用者とスタッフを増やしていく。

わずかではあるが寄付をいただけた。H29 年度で助成金が終了になることから、寄付を集める活動に力を入れる。法人がおこなっているデイサービスの利用者やイベントの参加者に寄付を募る。

(2) 事業のスケジュール

4月	くらしき健康福祉プラザで誰でも参加できる学習会
6月	調理体験
8月	くらしき健康福祉プラザで誰でも参加できる学習会
10月	ハロウィンイベント
12月	クリスマス会
2月	調理体験

8 目標

内容	現状	目標値
利用者の増加	8名	10名
寄付の増加	H28年度11月現在約12000円	30000円

9 受益者負担 団体の財源確保のため、可能な限り参加費や受講料などを徴収してください。

徴収する (見込み： _____)

徴収しない (理由： 困窮世帯の子どもが対象であるため)

10 事業の見通し

*2年後、3年後といった将来、事業をどのように展開させますか。
 寄付による運営を目指す。協力してくれたボランティアやアルバイトが子どものための活動をおこなう支援を続けていく。

11 他団体との協力

*他団体と協力して事業を実施するときは、その団体名や役割を記入してください。
 マンマカフェ：希望者には就労体験ができるよう連携していく
 わかものハローワーク：利用対象となる方を紹介していただく

12 行政との協働 自主事業コースの団体は記入不要です。

*協働する市担当部署の名称、役割、協議をした日及び内容を記入してください。

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
受益者負担		0	困窮世帯対象のため無し
会費からの繰入		8000	
その他	寄付	30000	デイサービス利用者等からの寄付
市補助金		167000	対象経費の90%
収入合計		205000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) ₂	積算根拠
人件費(会員) ₁		0	
交通費(会員) ₁		0	
人件費(アルバイト等)	アルバイト人件費 (有資格)	54000	時給 900 × 2h × 30 回
謝金(講師等)		0	
旅費交通費(講師等)	ボランティア交通費	20000	1回 200円 × 2人 × 50回
消耗品費	学習参考書 文具	15000	2000円 × 6冊 鉛筆など
印刷製本費	教材・チラシ等	5000	10円 × 500枚
通信運搬費	申込書郵送費等	1000	82円 × 12
保険料		0	
使用料・賃借料	教室使用料	90000	事務所家賃、1時間 900円 × 2時間 × 50回
外注費・委託費		0	
対象経費計		185000	
食糧費		20000	お茶菓子・イベントの材料費
人件費		0	
その他		0	
対象外経費計		20000	
支出合計		205000	(収入合計と一致)

1: 会員に支払う人件費と交通費の合算額は、対象経費計の1割を上限とする。

2: 金額欄は切り上げて千円単位で記入してください。